

教科における 郷土素材の活用を通して

鹿児島県立指宿養護学校

盲・聾・養護学校においても郷土教育については、いろいろな体験活動の中で、自ら学び、自ら考える力を育てる上での学習効果が期待されている。しかし、実際には障害のある児童生徒が受ける様々な制約のために十分な時間の確保が難しく、総合的な学習の時間における取組はなされてはいるが、教科における郷土素材の活用の充実までは至っていないのが現状である。このような状況の中で、積極的に教科の中での郷土素材の活用に取り組んでいる指宿養護学校の取材をさせていただいた。

指宿養護学校は、小児慢性特定疾患等で国立指宿病院に入院し、専門的な治療を受けながら、教育が受けられる病弱の養護学校である。薩摩半島南端部の指宿市に位置し、開聞岳を背に眼前には広大な錦江湾や大隅半島の山並み、はるか遠方には鹿児島のシンボル「桜島」を眺めることができ、澄んだ空と海、緑に囲まれた教育環境にあり、季節の花が咲き誇っていた。

1 郷土素材の教材化

当校の児童生徒は、病気治療入院のため、生活規制を受けているのがほとんどであり、保護者の居住地も県下全域にわたっている。登校しての授業をはじめ、学校行事や校外学習等の実施に当たっては、主治医の診断と許可、場合によっては医師、看護婦の付き添いの形態をとらなければ、実際の体験活動は難しい。このような実態の中で、領域・教科等において、創造的な学習活動を生み出す体験的な学習活動を未習得のまま退院し、前籍校へ復帰していくこともある。このような課題の解決と、病気克服に専念した場所が指宿市であったということが、これからの生活の中で心の支えとなるような取組が必要となる。そのために病院との連携を深めながら、児童生徒の前籍校



すり
指宿ヶ浜での学習

所在地の地域との関連も図り、郷土素材の活用を積極的に取り入れ、实际的に体験し、調べ学習を必要とする領域・教科等において、校外学習を進めている。

2 郷土素材を生かした教科学習の実際

表1は教科における郷土素材を扱った学習活動の概要をまとめたものである。それぞれの取組の中で6年生の「大昔の人々の暮らし」について紹介する。

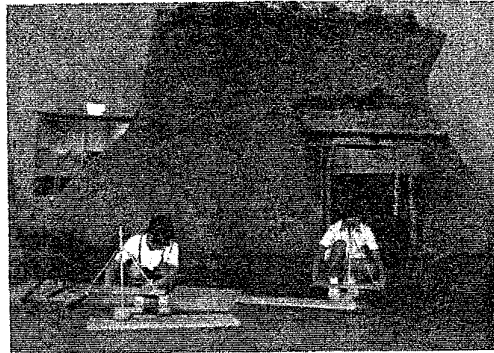
表1 教科における郷土素材を扱った学習活動

学部・学年	実施月	教科(単元名)	内 容 等	郷 土 素 材	
小 学 部	1・2 年	4月	春のまち大はっけん (生活科)	地域の人々や自然に積極的にかかわりながら探検しよう。	指宿市郷土マップ 地域の人々
		9月	秋のまちたんけん(生活科)	指宿市の町を探検しよう。	
		1月	冬のまちひろがれ(生活科)	指宿市の冬の自然を探そう。	
	3年	6月	わたしたちのくらしとまち (社会)	指宿市の様子を調べよう。	魚見岳、摺ヶ浜 指宿駅周辺
		6月	すみよいまちに (社会)	地区センターの活用について調べよう。	なのはな館
		10月	店を調べにいこう (社会)	八百屋やスーパーマーケットを調べよう。	指宿市商店街
		11月	おかしを作る仕事 (社会)	おかし工場と職人について調べよう。	さつま芋屋敷 (指宿市内)
		12月	やさいをそだてる仕事、魚 をとる仕事 (社会)	野菜づくり農家や漁業について調べよう。	指宿市内農家 大丸かつお工場 漁業市場
		2月	まちのむかしをみつけよう (社会)	昔の文化財を調べよう。	郷土の人材活用
	4年	6月	水はどこから (社会)	浄水場について調べよう。	指宿市浄水場
		6月	ごみノートを作ろう (社会)	清掃センターについて調べよう。	指宿市清掃センター
		7月	火事をふせぐ (社会)	消防署を調べよう。	指宿市消防署
		7月	交通事故をふせぐ (社会)	警察署や交番について調べよう。	指宿警察署 駅前交番
	5年	12月	放送局の役割 (社会)	NHK鹿児島を見学に行こう。	NHK鹿児島
	6年	6月	大昔の人々の暮らし (社会)	博物館で調べたり体験したりしよう。	COCCOはしむれ
		6月	計画的な食事づくり (家庭)	商店街を調べ調理実習の準備をしよう。	地域の商店
		7月	大昔の人々の暮らし (社会)	ふるさと歴史考古館で調べたり、体験したりしよう。	ふるさと歴史考古館
		9月	大地のつくり (理科)	地区の地層を調べよう。	山川町(徳光)
9月		夏の星座 (理科)	星の話聞こう。	学芸員	
10月		加工食品の調査 (家庭)	缶詰等の加工食品について調べよう。	地域の商店 県立山川高校	
11月		住まいの工夫 (家庭)	指宿の気候と住まいの工夫について調べよう。	民家 モデルハウス	
3月		心のつながり (家庭)	先生や友達について考えよう。(会食の準備)	地域の商店 学校職員	
全学年	9月	いっしょにおよごう (学級活動)	地域の小学校の様子を調べたり、いっしょに参加したりしよう。	魚見小学校	
中 学 部	3年	9月	くらしに身近な地方政治 (社会)	指宿市議会の様子を見学しよう。	指宿市役所 (議会傍聴)
		10月	進路の選択に備えて (学級活動)	公立、私立高等学校を調べたり、説明会に参加したりしよう。	南指宿中学校
	重複 学級	10月	指宿の自然に触れよう (生活単元学習)	野山や海岸を散策し、木の実や貝殻を採集しよう。	指宿国民休暇村周辺

指宿市には、その発見によって大正7年まで判明できなかった縄文時代から弥生時代への移り変わりを解明することになった「橋牟礼川遺跡」がある。この遺跡からの出土品により、そのころの人々の暮らしなどを知ることができる。

そこで、小学部6年生の社会科単元「大昔の人々の暮らし」で「橋牟礼遺跡」に関する郷土の素材を扱うことにし、まず事前の学習で調べ学習を積ませ、時代の特徴をつかませた。

児童は、「時遊館COCCOはしむれ」の見学では事前学習の成果から展示してあるものに非常に興味を示し、じっくりと観察したり、質問したりする姿が見られ、貝塚からは、土器のかけらや動物の骨を見つけたり、土器の形や大



「COCCOはしむれ」での学習

きさの違いから用途を推測したりしていた。弥生時代や縄文時代を比較した食卓の展示では、一つ一つの材料まで説明書を見ながら違いを確認し、学芸員へ盛んに質問する姿も見られた。また、教科書の写真にあったものを見つけると「本当はこんな形や大きさだったんだ。」とつぶやく声もあった。その後、実際に「橋牟礼遺跡」も見学し、大昔の人々の暮らしの様子や自然条件などについて想像し合い、成果の多い取組になった。

6年生の社会では、日本の歴史を学習する。ただし、目的は通史を扱うことではなく児童が歴史に興味・関心をもち、日本の国の歴史の動きを大きく見通すため、調べたり追求したりする意欲を高めるためのものである。その始めの導入部分である縄文時代、弥生時代の実際の遺跡を見学したり、体験したりすることができることは大変貴重である。教科書等で学習する前に校外学習をすることも考えられるが、この取組では学習した後の確認や記憶の修正、さらに歴史に対する興味・関心を高める意味でも「橋牟礼遺跡」という郷土の素材が大きな役割を占めていたと感じた。

3 取材を通して

地域は、子どもたちが生活している場所であり、地域の中で彼らは多くのことを学びとっていく。したがって郷土の素材を教材化し、体験活動を取り入れることによって、自ら考え自ら学ぶ意欲を促し、確かな基礎・基本を身に付けることができる。

病気治療のため、生活規制があり、校外での体験学習実施が困難な児童生徒ではあるが、先生方の「障害のある児童生徒であっても地域との結びつきが希薄であってはならない。」「学習空白を作ってはならない。」との熱い思いが困難さを克服する原動力となっている。指宿養護学校は、マルチメディアを活用した補充指導研究の先進校でもあり、その他、生涯学習県民大学等を積極的に推進し、学校と地域とのつながりを深めている。新学習指導要領に基づく教育課程の見直しを図り、郷土素材を活用した授業の展開をさらに進め、児童生徒の学習空白を取り戻し、基礎・基本の定着を図る教科指導研究に取り組む姿に感銘を覚えた取材であった。

(特殊教育研修室 研究主事 市来 公洋)